

みんなの広場

みんなのギャラリー



▲体験学習会「ひょうたんで作るお雛様」が開催され、かわいらしいお雛様が並びました。
2月11日(祝)/井筒屋町造商店(寿町)
◎井筒屋町造商店は3月末で閉店します。



▲3月9日(日)に市民文化センターミュージックで行われる伝統芸能発表会に向けて、練習に余念がない重松流祭囃子保存会星の宮囃子連(写真上/1月19日(土)・星の宮会館)と北野神明囃子連(写真下/1月26日(土)・大籠家稽古場)の皆さん。



▲春季キャンプ壮行会『埼玉西武ライオンズ激励の集い』に、約4,200人のライオンズファンが選手達を激励するために集まりました。
1月28日(月)「くすのきホール」(くすのき台・西武第二ビル8F)



▲「鬼はあ〜、そと！」元気な子どもたちからたくさんのお豆を浴びて、鬼は外に逃げ出しました。
2月1日(金)/並木保育園・豆まき会



歴史再発見 ところざわの文化財

江戸時代の武家の肖像 ~旗本沢氏画像~

市内三ヶ島の妙善院には、幕末に奉納された2幅の掛軸が今も大切に保存されています。江戸時代、三ヶ島村の領主として当地を支配していた旗本沢家の第7代から第9代にかけての当主夫妻を描いた肖像画です。

「旗本沢氏画像」と呼ばれるその掛け軸は、妙善院を開基したと伝える沢吉縄を初代として数えて10代目にあたる幸良が、7代目幸純の50回忌を記念して嘉永7年(1854)に奉納したものです。

沢氏は、戦国時代の末期に北条氏の家臣として三ヶ島の地に住み着いたといわれ、その後徳川家康の江戸入府に伴い、徳川氏の家臣として取り立てられ、江戶幕府が大名以下幕臣諸氏の系図や略歴を記した書『寛政重修諸家譜』によると、吉縄は関ヶ原の合戦に出陣し、妙善院を開基したとあります。以後、三ヶ島村の内150石をはじめ、600石を所領する中堅的な旗本として幕府に仕えました。

画像には、第一幅に7代目の幸純夫妻が、第二幅に8代目幸流、9代目幸得夫妻が描かれています。さらに第一幅の右下、袴姿であいさつを述べている人物が、この画像を描いた外弥太幸度で、左側の囲みには、次のように墨書されています(原文縦書)。「嘉永七甲寅年九月 幸純三男外弥太幸度 謹書画同人像」幸純の三男である外弥太幸度が謹んで描いた、と解釈できます。つまりこの画像は、作者の両親と兄弟夫妻さらに甥夫妻を描いたことになり、その肖像はより実像に近いと推測されます。また、描かれた装束からは、当時の風俗なども伺い知ることができ、歴史的な価値も高く評価されています。

市の指定文化財ともなっているこの画像、奉納から150年以上が経過し、傷みも進んでいましたが、昨年修理が行われ、鮮やかによみがえりました。問い合わせ 文化財保護課(☎2998-9253・FAX2998-9128)



▲第二幅 ▲第一幅



北野中学校での指導

所沢の伝統芸能を子どもたちに伝えたい

鈴木 恒一さん(北野南在住)

と当時を振り返ります。

北野神明組囃子連は、明治15年に北野神明社でお囃子を演奏したことから始まり、重松流の中でも独特のリズムを持っています。現在は子ども13人、大人27人を擁し北野天神で年4回(節分祭・春祭り・秋祭り・おおみそか)お囃子を披露しています。また、地区の文化祭に出演したり、老人憩の家こてさし荘で演奏したりとその活動の幅は年々広がっています。最近では、北野中学校の総合学習の時間に北野神明組囃子連のメンバーがお囃子の指導に赴き、中学生たちに地元の祭り囃子を伝えています。

「形のあるものは保存できる。しかし形のないものは伝承していかなければならない。途絶えることなく人から人へ伝える伝統文化は、わたしたち地域の宝です」と、鈴木さんは熱く語ります。

北野神明組囃子連が奏で、そして踊る重松流は未永く地域に愛され続けていくことでしょ。

はつらつ 野老っ子



重松流祭囃子といえは、毎年ところざわまつりで曳かれる山車の上で披露され、笛・小太鼓・大太鼓・鉦で奏でるテンポのよいお囃子です。オカメやキツネにふんして踊ったり、小太鼓の掛け合いがあったりと勇壮で見ていると楽しいこのお囃子は、市の無形民俗文化財に指定されています。

一度は見聞きしたことがあるという方も多いと思います。重松流祭囃子は、所沢に住んでいた古谷重松によって幕末から所沢を中心に広い地域に伝えられたといえます。

今回は、このお囃子の伝承地域の一つである北野で北野神明組囃子連の会長を務める鈴木恒一さんを紹介いたします。北野で生まれ育った鈴木さんは、昔は地元に残る長男にのみ伝承されたという伝統の重松流祭囃子を小学2年生のときから教え込まれます。

「昔は農家の納屋に集まり、夏は汗びっしょりになりながら、そして冬はかじかむ手をさすりながら練習をしました。今はビデオがあり覚えるのも楽になりましたが、昔は口伝のみで覚えなければならない時代で、何種類ものお囃子を覚えるのは大変苦労しました。」

まだまだ現役!

松郷・石原 晃子

20年ほど働かせていただいた私の職場が移転することになり、やむなく私も定年となりました。アルバイトの身ではありませんが、仕事も楽しく、忙しくも充実した日々でした。やめてから半年、雑事に追われ、やらなければならないこともたくさんあるのですが、仕事をしたい、という思いが強くなってきました。

なんとなしに求人広告を見ました。体力・気力・やる気はこんなにあるのに、中高年の働く場は少ないですね。がっかりしてしまいました。ところが「元気なおばさん募集」なんてありませんか。

第二の充実した人生

松郷・島村 紀一郎

都内の会社に勤め、朝は早く、帰りは遅く、そして土日ほとんど出勤。たまの休日仕事関係の付き合いが多く、典型的な仕事人間でした。近所の人の名前や顔も満足に覚えられない生活のままで定年を迎えました。

あまりにも地域のことについて無関心だったので、少しでも地域のお役に立ちたいと思い、手始めに公園の清掃に参加しました。その後、町内会、環境推進、学校、地域のイベント等の諸活動に参加するようになりました。これらの活動に参加することで今まで知らなかった地元の地理に明るくなり、また多くの方と知り合い交流を深めることができました。自分自身にとって大きなプラスになりました。

また、活動の合間をみては好きな旅行や音楽会・絵画の鑑賞などを楽しみ、健康面でも特に問題なく第二の充実した人生を送っています。



下安松・川北 肇

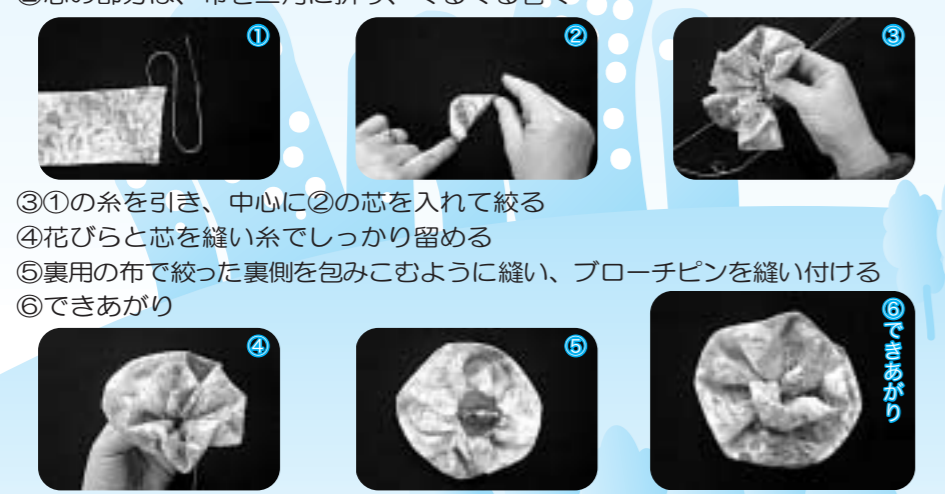
試して 楽エコ!!

~思い出のスカートで作るコサージュ~

卒業、新入学と行事が続く時期ですね。タンスに眠っているブラウスやスカート、ハンカチーフなどを生かしてコサージュを作りましょう。スーツやワンピースの胸元につけると華やかになります。晴れの日の装いに、思い出の布で手作りコサージュはいかがですか。

- 【材 料】(今回はスカートで作ります)
次のものを用意します。
- 花びらの部分(古布10~15cm×50~60cm)
 - 芯の部分(古布8cm×8cm)
 - 裁縫用具、ブローチピン、裏用の布少々

- 【作り方】
- ①花びらの部分は、布を縦に半分に折り、布端から1cmほどのところをぐし縫いする(あとで糸をひいて絞るので針はそのまま)
 - ②芯の部分は、布を三角に折り、くるくる巻く



問い合わせ リサイクルふれあい館・エコロ(☎2994-5374・FAX2994-1118)

皆さんからの写真や投稿をお待ちしています!

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント(約60字)を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『新入社員』▶文章は添削あり▶締め切りは3月7日(金)必着▶掲載者には記念品を進呈

◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール(アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp)でご応募ください。